

## 第11回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」の報告書

10月20日（水）に、第11回万葉集を楽しむ会@花奈雅和が開かれました。リアルが13名、リモートが4名で合計17名の参加となりました。緊急事態宣言が解除されてもマスクで参加です。



今回のテーマはクリ「栗」です。学名はラテン語で栗とギザギザの意味を持つ *Castanea crenata* で、英語では chestnut ですが、日本では仏名の“マロン”が使われたりします。落葉性高木で15mにもなるのですが実を取りやすいよう大きくせず栽培されています。縄文時代からすでに栽培されていたそうです。クリの実だけは「栗」と呼ばれるのに他のブナ科の実はすべて「どんぐり」と呼ばれるのは不思議です。似ているクヌギとの幹や葉の違いも教えていただきました。



野生のシバグリ（ヤマグリ）



クリの実。穂の中に普通は3個

搗栗/勝栗（干して臼でつき殻と渋皮を取り除いたもの）



クヌギの実（どんぐり）



とても身近なクリですが知らなかった面をたくさん知ることができました。食用（栗ご飯や菓子）としてはもちろんですが、耐水性にすぐれることから建材として合掌造りや鉄道の枕木にも使われていたこと、薬用として漆かぶれにも使われ、さらにクリの穂（いが）は染色（虫よけに効く）にも使われていたこと、搗栗（かちぐり＝勝栗）が勝つに繋がることから縁起物としてお正月に飾られたとのことなどです。ヘルマン・ヘッセの「夢」の詩の一節の赤い花咲く (ein rotblühender) カスタニエンの木は実際にはピンクのマロニエのことで、ドイツではピンク色も赤色も「赤」と呼ばれることを、先生もドイツでの経験で初めてお知りになったそうです。栗は穂（いが）に3個の実が入っていたことから「三栗（みつぐり）」という枕詞（「中」にかかる）が生まれました。今は品種改良で大きな一粒だけのものもあるようです。

万葉集ではクリは3首歌われています。今回は山上憶良の歌をご紹介します。

(原文) 宇利〈波〉〈米婆〉胡藤母意母保由 久利波米婆 麻斯提斯農波由 伊豆久欲  
利 枳多利斯物能曾 麻奈迦比尔 母等奈可利提 夜周伊斯奈佐農  
(訓読) 瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして思ゆ いづくより 来たりしもの  
ぞ 眼間(まなかい)に もとなかりて 安寐し寝なさぬ  
(意味) 瓜を食べていると子供の事が思われる。栗を食べるとましてしのばれる。子供  
というのはどこからやってきたのだろう。まのあたりにしきりにちらついて安  
心して眠られない。 5/802 山上憶良(やまのうえのおくら)

この長歌は山上憶良が妻を亡くした大伴旅人に送った「挽歌」と同じ日に<sup>かま</sup>嘉摩三部作のうちの一つ  
<sup>こらしのへるうた</sup>忠子等歌一首(序、長歌、反歌)に収められたものです。上司の大伴旅人とは歌でも仕事でも深  
い結びつきがありました。あとのふたつは<sup>まどえるころをかえさしむるのうた</sup>令反感<sup>よのなかのとまりがたきをかなしびるうた</sup>情<sup>まどえるころをかえさしむるのうた</sup>歌と<sup>よのなかのとまりがたきをかなしびるうた</sup>哀世間難住<sup>まどえるころをかえさしむるのうた</sup>歌です。長歌だけ  
でなく序と反歌とセットで鑑賞するべきとのことです。漢文で書かれた序では、釈迦が人の子も平等  
に愛しいと説くと同時に、我が子への愛に勝るものはないとも説いたことを取り上げています。「令  
~」の中では妻子を捨てて僧門に入るなどしたいようにしないで家に帰って仕事に励みなさいと、国  
司としての立場からの政治的な歌もあります。「貧窮問答歌」の弱者に寄り添う社会派歌人としての  
歌や子供をいつくしむ歌とは違った面が見受けられます。反歌は教科書にも載ることの多い次の一首  
です。

(原文) 銀母 金母玉母 奈尔世武尔 麻佐礼留多 古尔斯迦米夜母  
(訓読) 銀(しろがね)も金(くがね)も玉も何せむに子にまされる宝子にしかめやも  
(意味) 銀も金も珠も何の役にたとうか。子に勝る宝はあるだろうか。 5/803

「も」の万葉仮名に「母」の字を何度も当てているのには意図があるのでしょうか。「歌を鑑賞する  
だけでその人の人柄がわかりますね」と先生のお言葉です。無位だった憶良は40歳の時に遣唐使と  
して唐に渡り儒教、仏教、最新の学問を身に着け、その後は出世をしたそうです。この三部作につい  
ては先生の「吾意在野游の<sup>かま</sup>嘉摩三部作」考で、目からうろこのお話がありましたが、これは参加者限  
ということなので・・・。

最後に高橋虫麻呂の歌をご紹介します。三つ栗が「中」にかかる枕詞を確認しました。山上憶良の  
長歌と反歌に下記の歌も加え、いつものように全員で唱和をして万葉の調べを楽しみました。

### 三栗の 那賀(なか)に向かえる曝井(さらしめ)の絶えず通はむ そこに 妻もが 9/1945



今回の先生の着物は濃淡のある栗色の縞模様でした。帯は縄文時代のクリ林  
をイメージしたものです。マスクは栗と搗栗の模様で帯留も栗の実でした。



参加者の皆さんの感想の一部をご紹介します。

●栗が縄文時代から栽培されていることにびっくりしました●ドイツではピンク色が赤とよばれるのに驚きました●漆かぶれに薬はないと聞いていたので栗が効くと知って衝撃です●交通手段も満足でないこの時代に唐や大宰府と憶良はよく動いたと感心しました●憶良は貧しい人や子供を思う優しい歌が印象的ですが、役目上政治的な意図を含んだ歌もあると知って驚きました●最近万葉集の会から帰るとすぐ妻が今日は何をやったの?と興味を持って聞いてくるので会話がはずみます。今度マロンはフランス語だと友人に教えてやろう●山上憶良に惚れました。こんな人いないかなあ。

## 第12回万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

開催日時： 令和3年12月15日(水) 10:00~12:00

場所： プララ杉田505号室

参加費： 1500円

◎参加申し込みは杉本啓子にお願い致します。[keni9ri@yahoo.ne.jp](mailto:keni9ri@yahoo.ne.jp)

令和3年11月1日

文責：三浦美智子・高木紀世子

~~~~~  
万葉集を楽しむ会@花奈雅和

講師： 吾意在野游・高木紀世子

世話役：水野裕子(代表世話役)、杉本啓子(名簿管理)、三浦美智子(書記)、多比良恵子(会計)

~~~~~  
追加情報

12月15日にご都合の悪い方は直接講師(cc杉本さん)にご連絡ください。会費は同じ1500円です。

[paksara3t@7.dion.ne.jp](mailto:paksara3t@7.dion.ne.jp)

リアル(横浜個教室)

令和3年11月23日(火) 9:30~

令和3年12月5日(日) 9:30~

令和3年12月12日(水) 9:30~

12月後半にリモートもありますので、リモート希望の方はお問い合わせください。

\*\*\*